

令和6年度 自己評価報告書

学校法人 小澤学園 国立富士見台幼稚園

◎自己評価 令和7年 3月13日(木)

1. 本園の教育目標

- * 集団生活を通して、健全なからだと心のバランスの取れた豊かな人間形成の基礎を養う
- * 自分の好きな遊びを思いっきり楽しんだり、ともだちと共に同じ経験を共感し、その体験の中から自立性や他者を思いやる心を育む。
- * 四季折々の農園作業を体験することで、自然の偉大さ大切さを知り、豊かな情操を育む。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画（幼児教育の内容・方法の改善）

* 本園の教育目標を踏まえ、幼児が楽しく活動できる環境を整え、より質の高い教育の実践を目指し、幼児教育の内容・方法を改善していく為に以下の4項目に重点的に取り組む。

- ① 外国人の英語講師を定期的に招き、園児たちが楽しみながら講師との交流・英語に触れる機会を持つ。
- ② 芝生化した園庭を活用し、園児が運動や遊びを通して体力作りに取り組む。
- ③ 年長児に実施している茶道指導をより充実させる。
- ④ 自然環境を活かした農園行事の充実

3. 評価項目の実施報告・取組状況及び評価

- ① 各学年（年長組・年中組・年少組）共に、5月～3月に、月2～3回外国人の英語講師を定期的に招き、園児たちが楽しみながら講師との交流・英語に触れる機会を持った。

取組状況＝年少児は初めての英語に戸惑いながらも、徐々に楽しく参加できるようになり、年中・年長と回数を重ねる毎に理解も深まり活発なレッスンになっていった。又、色々な国の講師と触れ合えることで、海外への興味を感じられるようになった。各学年、各クラス毎の様子を報告し合い、子ども達の取組状況を把握した。その上で保育者の声かけの仕方等も工夫し、子ども達がより楽しく活発に英会話レッスンに参加できるようにした。日常的に英語で天気を言う等、英会話で行ったことを定着できるようにした。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

評価＝A

- ② 芝生化された園庭では年間を通し、子ども達のがのびのびと遊び、思い切り体を動かして遊ぶことで、体力作りに取り組むことができた。体育指導では、各学年（年長組・年中組・年少組）共に、主に競技性のある遊びを取り入れ、団体競技のおもしろさ、

ルールを学びながら体力作りに取り組めた。

取組状況＝子ども達がのびのびと園庭で遊び、寝転んで友達と談笑したりする微笑ましい姿が見られた。又、転んでも芝生により大きな怪我を防ぐことができた。安心して走ったり、思い切り体を動かして遊ぶことで、体力向上につながっている。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

評価＝A

③ 5月～3月、学期ごとに数回、幼稚園の茶室を利用して年長児に「茶道」の指導を行いました。日本の伝統文化・作法（実際にお茶をたて、飲みます。）を伝え、普段の園生活では体験できない静寂な時を過ごすことで、豊かな情操が育まれる様に取り組んだ。

取組状況＝園の茶室を使用し年長児に指導する茶道（ごきげんよう教室）は、和室での作法（相手に対する礼儀や挨拶等）、普段とは違う緊張感のなかで行うことができ、年長児には良い時間・経験となった。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

評価＝A

④ 自園の農園で、季節ごとにジャガ芋・もち米の苗・各種野菜を植え、観察・収穫を体験する。今年度は自然災害の影響で、田植え・稲刈りは中止となり、縮小した田んぼで収穫は減ってしまったが、各クラス毎に作った「案山子」を立てたり、もみすり・精米等、もち米になるまでを観察し、餅つき大会を行った。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

評価＝B

取組状況＝ジャガ芋掘りや田植え・稲刈りを通して、普段当たり前に食しているお米や野菜・給食・お弁当等に、感謝の気持ちを持つことが出来た。又自然に直接触れることで、豊かな情操を育むことが出来た。各クラス手作りの「案山子」が立つ田んぼは、地域の人気スポットになり、幼稚園の取り組みを周囲へ対してもアピールできた。

4. 総合的な評価（4つの項目に取り組んだ結果）

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

評価＝A

国立富士見台幼稚園の特色を活かした英語・茶道の指導・農園行事や芝生の園庭での遊び等、沢山の経験をし、一人一人の意欲の向上や感じることの大切さが学べた。自然豊かな環境で、心身共に成長でき、教育水準の向上が図れた。

5. 今後取り組む課題（教育・環境・安全管理・幼少接続、等々質の向上）

教育…自ら考える力を養えるように様々なことを経験・体験する

環境…現況を維持し、子ども達が積極的に遊べるようにする。

安全管理…危機管理マニュアルを見直し、作成する。

幼小接続…共に学ぶ機会を持ち研修会などに参加する

令和6年度 学校関係者評価報告書

※学校関係者（小澤学園評議員会）

令和7年 3月19日（木）

1. 本園の教育目標

- * 集団生活を通して、健全なからだと心のバランスの取れた豊かな人間形成の基礎を養う
- * 自分の好きな遊びを思いっきり楽しんだり、ともだちと共に同じ経験を共感し、その体験の中から自立性や他者を思いやる心を育む。
- * 四季折々の農園作業を体験することで、自然の偉大さ大切さを知り、豊かな情操を育む。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画（幼児教育の内容・方法の改善）

* 本園の教育目標を踏まえ、幼児が楽しく活動できる環境を整え、より質の高い教育の実践を目指し、幼児教育の内容・方法を改善していく為に以下の4項目に重点的に取り組む。

- ① 外国人の英語講師を定期的に招き、園児たちが楽しみながら講師との交流・英語に触れる機会を持つ。
- ② 芝生化した園庭を活用し、園児が運動や遊びを通して体力作りに取り組む。
- ③ 年長児に実施している茶道指導をより充実させる。
- ④ 自然環境を活かした農園行事の充実

3. 評価項目の評価

- ① 各学年（年長組・年中組・年少組）共に、5月～3月に、月2～3回外国人の英語講師を定期的に招き、園児たちが楽しみながら講師との交流・英語に触れる機会を持った。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

評価＝A

実際に外国人講師との交流を通して、子供たちが異国の言語・文化に触れる機会を得られるのは大切なことで、さらに今後の取り組みに期待したい。

- ② 芝生化された園庭では年間を通し、子ども達がのびのびと遊び、思い切り体を動かして遊ぶことで、体力作りに取り組むことができた。体育指導では、各学年（年長組・年中組・年少組）共に、主に競技性のある遊びを取り入れ、団体競技のおもしろさルールを学びながら体力作りに取り組めた。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

評価＝A

芝生の緑は、子供たちが園生活を送るうえで、視覚的にも情緒的にも豊かな情操を育む大切な要素になっている。富士見台幼稚園は園庭も広く、

のびのびと遊びを展開するのに、芝生の園庭は素晴らしい特色になっている。

- ③ 5月～3月、学期ごとに数回、幼稚園の茶室を利用して年長児に「茶道」の指導を行った。日本の伝統文化・作法（実際にお茶をたて、飲みます。）を伝え、普段の園生5月活では体験できない静寂な時を過ごすことで、豊かな情操が育まれる様に取り組んだ。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

評価＝A

日本の伝統文化・作法を子供たちに伝えることで、豊かな情操が育まれるのは、素晴らしい体験になると思われる。今後も期待したい。

- ④ 自園の農園に、季節ごとにジャガ芋・もち米の苗・各種野菜を植え、観察・収穫を体験する。今年度は自然災害の影響で、田植え・稲刈りは中止となりましたが、縮小した田んぼで収穫は減りましたが、各クラス毎に作った「案山子」を立てたり、もみすり・精米等、もち米になるまでを観察し、餅つき大会を行った。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

評価＝A

農園行事は、地域の特色を生かした富士見台幼稚園の伝統的な行事になっていて、大きな特色として定着している。農園行事は天候に左右されやすく色々と苦勞も多いと思われるが、末永く取り組んでいくよう、期待したい。

4. 総合的な評価（4つの項目に取り組んだ結果）

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

評価＝A

富士見台幼稚園の特色を活かした、英語・茶道の指導・農園行事や芝生の園庭での遊びの取り組みは、地域や多くの父兄からも好評価を戴いている。今後も子供たちが自然豊かな環境の下に心身共に成長するため、教育水準の向上を図っていただきたい。

5. 今後取り組む課題（教育・環境・安全管理・幼少接続、等々質の向上）

教育…自ら考える力を養えるように様々なことを経験・体験する

環境…現況を維持し、子ども達が積極的に遊べるようにする。

安全管理…危機管理マニュアルを見直し、作成する。

幼小接続…共に学ぶ機会を持ち研修会などに参加する